「古今東西　オリンピック」

新得町立屈足中学校　校長　山下　英男

２０２０年東京で夏季オリンピックが開催されます。過日、観戦チケットの抽選申し込みが始まり、ネット上でもなかなか申し込みサイトにつながらず大変そうです。

最近のオリンピックにおいて商業色が強くなっているように感じているのは、私だけでしょうか？昔のオリンピックの規則には、参加出来るのはアマチュア選手に限るという決まりがありました。当時、オリンピックに出場することが一番の名誉であって、スポーツでお金を稼いでいるプロの選手はふさわしくないという理由で出場できませんでした。

しかし、時代の移り変わりとともにオリンピックを見る人たちの意識も変わり、プロアマ問わずに最高のプレーが見たい、一流の選手のプレーが見たいとなり、１９７４年に、オリンピックの出場資格ルールから「アマチュア」という言葉が削除されました。そして、オリンピックでプロ選手を含む最高のプレーを見ることが出来るようになり、見せる・魅せるオリンピックとなって来ているのでしょう。

昔は、一生懸命頑張ることで観客を引きつけて見せていました。今は、一生懸命頑張りながらも場面を盛り上げて、何かしらのメッセージを発信して観客と共に感動を得ることで、観客を引きつけて魅せていると思います。ちなみに、最初にプロ選手が参加したのは、１９８８年ソウル大会の女子テニスで、西ドイツのグラフ選手が金メダルを取りました。こうしてオリンピックに限らず、大会において優秀な成績を収めることで、報奨金やスポンサー契約などの大きな利益が生まれる時代となってきました。

その結果、オリンピックを含む各種大会でドーピングという不正行為が多く行われてしまうようにもなって来ています。選手も観客も初心に戻り、勝つことだけでなく、お互いに競い合って磨き合うことを目指したオリンピックになって欲しいと思います。

そして、不正行為のない、一流選手のプレーをオリンピックという最高の舞台で見たい（魅たい）です。

電子版で朝刊読めます

スマホで！タブレットで！パソコンで！紙面を丸ごと読むことができるサービス、「どうしん電子版」！

購読料プラス　0円

「どうしん電子版」は、道新を月決め料金で定期購読している方なら、無料で登録できる電子版会員限定のサービスです。

©北海道新聞社

お問い合わせは

0120-889-104

こちら屈足駐在所

No2

佐藤和典　巡査部長

「新たな詐欺の手口に注意」

新元号「令和」になり約１ヶ月が経ちました。

現在のところ、新得警察署管内ではありませんが、他地域で「元号改元による手続きが必要」といった全くありもしない架空の手続きを求め、新しい手口、理由で詐欺を行おうとする事件が発生してます。

また、電話等で「アンケート調査」と称して、一通りのアンケートを模した会話の後、家族構成、年収、貯金等を聞き出し、後日別の者からの電話でＡＴＭへ誘導するといった手口です。

孫や子供を装わずに、架空の機関や、職員を名乗り、非常に丁寧な対応で話し掛けて来ます。極めて巧妙な手口も見受けられますのでどうかご注意下さい。

不審な電話、手紙等は一切相手にせず、困ったなと思ったら警察までご相談下さい。

本

送料無料

当販売所では様々なジャンルの書籍、雑誌、文庫、新書、週刊誌の定期購読など、ほとんど全ての出版物を確実にお取り寄せします。

今読みたい話題作！欲しい本をお取り寄せ！

気軽にお問い合わせください。

通販は送料がかかりますが当販売所は無料です。

※当店取り置きとなります。宅配サービスは致しません。

道新五月号ポケットブックの御案内です。

▼ポケットブック
5月号―らくらく缶詰レシピ
原料の風味や栄養がギュッと詰まった缶詰は、少しの手間で料理をおいしくしてくれる優秀食材です。
下ごしらえが不要なので忙しいときも、そうでないときも大助かり。保存食として置いておくだけではもったいない、手軽で楽ちん、選ぶのも楽しい缶詰メニューを紹介します。
配布済み

次号予告
どうしん電子版活用ガイド　お楽しみに。

ねっとわーく屈足　検索

ねっとわーく屈足電子版
ミニコミ紙「ねっとわーく屈足」が、パソコンやスマートフォンで動画も閲覧できます。
ツイッターも屈足の話題一杯毎日更新！

じじーakira1942　検索

連続小説

加奈子

赤池　武臣

その中に一人、歳下と見ると部屋まで押しかけて行っては説教喧嘩（けんか）するのがいる。普段はおとなしいが、酒が入ると始まる。

以前から度々（たびたび）そんな事があり、学生は親からの預り者だから、今度やったら出て行ってもらうときつく条件を付けていた。

「もし、彼奴だったら、もう許せない」

加奈子は自分に言い聞かせた。

得意先のハイヤーも時間が時間なのでなかなかいい返事をしてくれない。

加奈子は何度も事情をくりかえし、やっとのこと車を廻してもらった。

下宿まで車で二十分はかかる。

好一の当惑した顔と押えがたい感情が、どろどろと混じり台って胸の中で渦巻いた。

車代も後回しにし荒々しく玄関を開けると小走りに部屋に走る。

どろんとした眼で男が振り返った。加奈子を見ると「やあー」と片手を上げ、愛想笑いをした。あどけない顔が俯いて震えている。

その学生を庇（かば）い好一が座っていた。

「アンタッ、とうとう約束を破ったねッ。いつもあんたには、学生さんは親からの預り者だと、きつく言ったはずだよ。これで三度目だ。もう我慢も限界だよ。明日にでも、荷物まとめてもらうからねッ。おいでッ」

それだけ言うと加奈子は有無を言わさず、男の襟首を掴（つか）むと廊下に引きずり出した。

アルコールに汚染された男の躯は蛸（たこ）にも等しい。

辛うじて骨盤に引っかかったズボンのベルトが、加奈子の歩く度、ゴトッ、ゴトッと床で鳴った。

翌日、幾度も男は詫（わ）びを入れたが、加奈子は頑として受けいれなかった。

ここで許してしまう事は、好一に対して、しめしがつかないと思ったし、許せば純粋な心で接してくれている好一にそっぽむかれる事も、正直いって怖かった。

（入居者は補充が効くけど、人の心は一度失うと、もう戻っては来ないからね）　加奈子は、遠い昔の自分をみつめながらしんみりと言い聞かせるのだった。

つづく